

2025年7月20日 聖霊降臨後第六主日礼拝説教
「なにを選ぶのか」(ルカ10章38～42節)

○ルカ10章38節のみことば

「すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。」
エルサレムへと歩みを進めた神の子イエスが、通りかかったある村で、マルタの招きに応じて、交わりの時をもたれた。

「マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」(40節)
キリストに喜んでほしいとの願いからマルタは、心を込め、手を尽くしたが、「やらねば」との思いが先立ってしまう。

○ルカ10章41節のみことば

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」
救い主イエスは、落ち着きを失ったマルタの心に寄り添い、御前において、なにが最も大切なことなのかを教えられた。

今日のみことば：ルカ10章42節

「しかし、必要^{ひつよう}なことはただ一つ^{ひと}だけである。マリアは良い方^{よほう}を選^{えら}んだ。」
キリストは、ご自身を喜ばせるため働くマルタより、受けることを求めたマリアのほうが、よき選^{えら}びをしたと語られた。

「マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。」(39節)
おそらくマリアは、神の子イエスが来たのだから、何よりも先ず、みことばに聞きたいとの願いをもっていたのだろう。
☞マリアの心は、「なんとかして救われたい」との気持ちに満たされて、もてなしにまで、気が回らなかったかも。

○ローマ10章17節のみことば

「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」
※わたしたちも、神のためにと心焦ることなく、己の思いに流されず、いつも、静まって御声に聞くときを選ぼう。